

【報告】大学コンソーシアム大阪 プロジェクト型インターンシップ

【プログラム名】

西淀川区役所留学 2021。

「にしよどミライラボ構想プロジェクト」



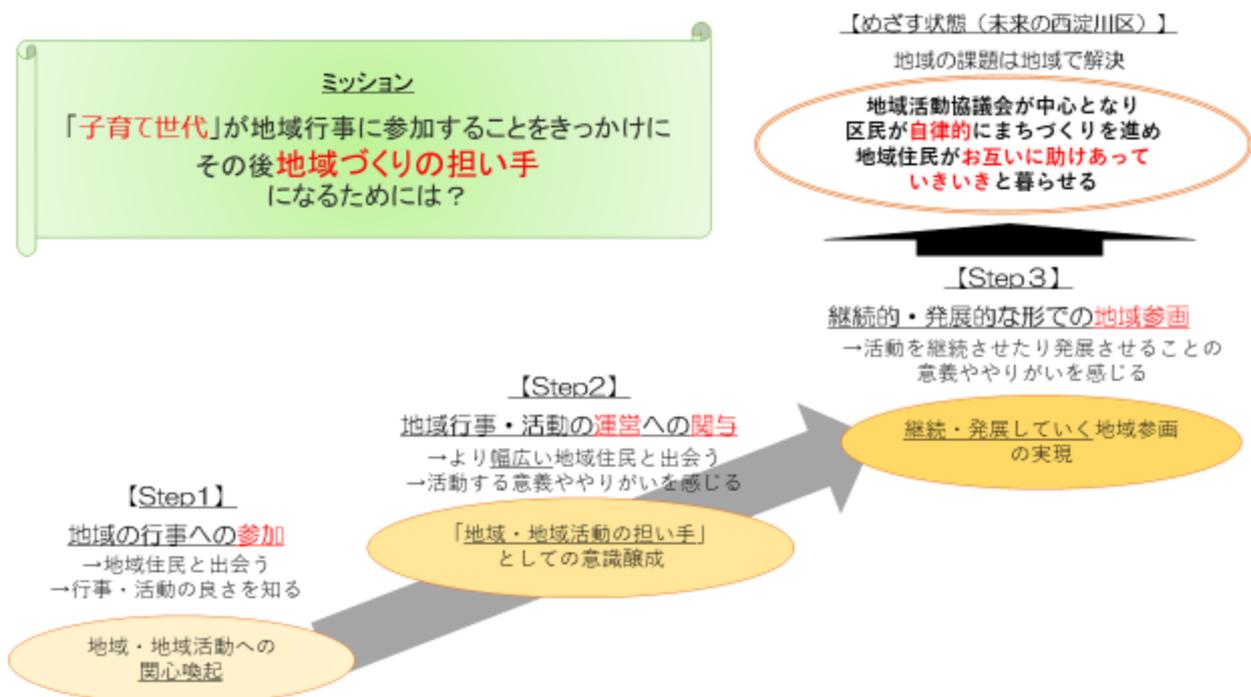
(最終成果報告会での参加学生および協力者の様子)

【プロジェクトについて】

「にしよどミライラボ構想プロジェクト」は、大阪市西淀川区役所との連携のもと、地域住民主体のまちづくり（住民自治）をめざす西淀川区において、若者のコミュニティへの参画を促す仕組みを構想する。課題解決やより良い未来の創造に参画・協働するための持続可能な地域プラットフォームを構想、仮構築、検証するプロジェクトである。

【プロジェクトのミッションとその背景】

今回のミッションは「子育て世代が地域行事に参加することをきっかけに、その後地域づくりの担い手になるためには？」である。区役所が地域団体へのヒアリング結果により把握している地域活動の課題は、役員の高齢化や一部役員への役職の集中による「地域活動の担い手不足」と地域への帰属意識の低い住民が増加したことによる「地域活動への住民参加の低調」である。この課題をふまえ、めざす状態に向けて、3つのステップを設定した。(以下参照)



【参加学生】

10名（2年生2名/3年生7名/4年生1名）（男女比 6:4）

【大学】

大阪観光大学1名・大阪経済大学1名・大阪工業大学1名・大阪電気通信大学2名・大手前大学1名・近畿大学2名・四天王寺大学2名



【連携先】

大阪市西淀川区役所

【担当者】（敬称略）

総務課 担当係長 小林 久美子

地域支援課 担当係長 松井 久仁夫

【協力先】（敬称略）

公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団） 事務局長 藤江 徹、谷内 久美子

NPO 法人にしよどにこネット 代表理事 福田 留美、その他スタッフ

にこパパネット 山本 智宏

【指導担当】

NPO 法人 JAE キャリア教育コーディネーター 松田 雅子、角野 綾子

【スケジュール】

プログラムのスケジュールは、座学・フィールドワーク・地域団体インタビュー・チームでのディスカッション・報告会などで構成される、以下の日程で実施した。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学生の移動や外部との交流時間を最小限に止めるため、区役所との課題共有や地域団体へのインタビュー、中間報告会や最終成果報告会でのフィードバックはオンラインを活用して行った。

回	日時	テーマ	内容
1	8月23日(月)	オリエンテーション	1)プロジェクト内容の説明、目標設定 2)アイスブレイク、アイデア出しの練習 3)西淀川区役所からミッションに関わる説明、仕事での心構え等 4)フィールドワークの質問を考える
2	8月24日(火)	フィールドワーク①	1)地域団体へのインタビュー (一部のメンバーは自転車ツアーに参加)
3	8月25日(水)	作戦会議①	1)あるべき未来の西淀川区を描く 2)インタビュー準備
4	8月26日(木)	フィールドワーク②	1)地域団体へのインタビュー
5	8月27日(金)	フィールドワーク③	1)地域団体へのインタビュー
6	8月30日(月)	作戦会議②	1)インタビューの振り返り(現状の確認) 2)企画準備:チーム分け 3)企画準備:課題を解決するためのアイデア出しとリサーチ
7	8月31日(火)	企画会議①	1)企画の考察:企画概要を考える
8	9月1日(水)	企画会議②	1)企画の考察:企画の具体化 2)プレゼンテーション準備
9	9月2日(木)	中間報告会	1)中間プレゼンテーション 2)企画へのフィードバック 修正
10	9月3日(金)	企画会議③	1)企画修正 2)プレゼンテーション準備
11	9月6日(月)	最終成果報告会	1)プレゼンテーションのリハーサル 2)最終の企画プレゼンテーション、表彰式 3)最終振り返り

【成果報告】

上記スケジュールに基づく実習を経て、以下の3件の企画が提案され、各賞を授賞した。

ママさん学校 ～繋がれる場所づくりから地域の担い手へ～ (ナイス・プロジェクト賞)	地域活動協議会の運営によるママさん学校(「子育てママ」を対象とした様々な活動を行うサークルのような団体)の環境整備やSNSでの広報サポートを行う企画。地域の課題に関連した楽しいイベントへの参加を促したり、短期間の運営体験ができたり、シニア層との交流の機会を作ったりすることで、地域への関心喚起をはかる。
つながれ地域!つながるコミュニティ! (ナイス・プレゼン賞)	赤ちゃんが生まれた家庭に、子育てコミュニティの担当者が訪問し、イベントを案内したり、アンケートを行うことで地域活動につなげると同時に、子育て世代のニーズを把握。さらに、SNSを活用し、子育て世代や外国人等を対象に、各ターゲットのニーズに合わせた情報発信を行う企画を提案。

<p>一緒にまちをつくるで！ ～まちづくり団体立ち上げ支援～ (ナイス・アイデア賞)</p>	<p>区が地域活動協議会と連携し、子育て世代の参加をねらって新規団体の立ち上げを支援する企画。第一段階として、親子で楽しめるイベントを企画。第二段階として、地域活動参加中に連携団体による子ども預かりサポート等を提供。第三段階として、「目に見えるまちづくり」の運営体験ができる仕組みづくり等を企画提案。</p>
--	--

【まとめ】

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学生の移動や区役所・外部団体との対面交流を極力控え、オンラインを活用する形でプロジェクトを実施したこともあり、特にスタート段階では、学生が「西淀川区」という地域について実感を持って理解したり、「区役所」という立場を体感することに困難を感じている様子が見られた。その後、オンラインで地域団体の方にインタビューを行ったり、区役所のメンターの方とやりとりする中で徐々に地域や区役所の仕事に対する実感・理解が深まっていたように見受けられた。ただ、オンラインということもあり、メンターとのちょっとしたやりとりや雑談なども難しい状況だったため、メンターの人となりや区役所職員としての仕事観に触れることが、対面交流と比較すると難しかったと推察される。また、オンラインの活用に伴い、IT機器の準備・調整やそれに伴うスケジュール調整をする必要が生じたため、運営側や連携先の関係者の関与時間が例年に比べて大幅に増加することになった。今後もこのようなオンラインを活用する状況が継続すると仮定した場合、運営体制や実施形態をどのようにしていくかについて検討の必要があるだろう。

プロジェクト全体を通しての学生への効果については、最終のふりかえりに書かれた学生の感想では、「やりきった」という言葉と共に「改善点が見つかった」「もっと良くしたい」という趣旨の記述もあり、達成感を感じつつも、今後に向けての課題も発見できた様子が見受けられた。公務として実際に公共政策を実行していくことの意義と同時に難しさも実感し、「働くとは何か」「公務員とは何か」についての理解と実感が深まったのではないだろうか。参加学生の半数が公務員や地域の活性化に興味を持ち、将来の進路の選択肢に入れている学生であったため、今後の進路を考える上でも非常に有用な機会になったと考えることができる。

また、連携先（西淀川区役所）からは、「実現に向けてぜひ検討したいと思うようなアイデアもあった」「学生の既成概念にとらわれない発想に触れることで、自分自身の仕事の進め方について見つめ直す機会になった」等、プロジェクトの意義を評価する声が聞かれた。今回は準備段階において、実施体制の変更が生じたが、今後の方向性や実施体制についても関係者との協議をふまえて検討していく必要があると考える。

(報告者：NPO 法人 JAE 松田雅子 角野綾子)